

EMT981 再生系の再構成(10)

－ハイドンを聴く(1)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から TruPhase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。まずは、しばらく聴いていないハイドンの作品から聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古いアナログ録音などで定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンのチェロ協奏曲です。

日本コロムビア COCO-78028

ハイドン チェロ協奏曲 1 番ハ長調

チェロ協奏曲 2 番ニ長調

ミクローシュ・ペレーニ (チェロ)

ヤーノシュ・ローラ指揮フランス・リスト室内管弦楽団

DHM BVCD-34002

ハイドン チェロ協奏曲 1 番ハ長調

チェロ協奏曲 2 番ニ長調

協奏交響曲変ロ長調

鈴木秀美 (チェロ)

ジギスヴァルト・クイケン指揮ラ・プティットバンド

3. EMT981 の試聴結果

ペレーニ盤は、チェロ協奏曲 1 番、2 番とも躍動的で勢いのある演奏です。廉価盤ながら音質もデジタル臭さが感じられません。

鈴木秀美盤は、チェロ協奏曲 1 番、2 番とも、ややスローテンポで丁寧な演奏です。恐らくはラ・プティットバンドも含めてガット弦と思われ、落ち着いた音色です。協奏交響曲変ロ長調は、あまり聴く機会のない曲ですが、ヴァイオリン、チェロ、オーボエ、ファゴットと管弦楽の協奏曲で、軽快で浮き浮きするような表情で

進行します。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともデジタル臭さを感じない艶やかな音が楽しめます。

以上